



心  
最高の  
設備 技術

最前線医療を行く

リウマチ科

専門医とチーム連携体制で

手

がこわばる、関節が腫れて痛いなどの症状が多い関節リウマチは、自己免疫疾患の一つで、関節の骨の破壊が起こる病気。女性が男性の4倍多く、発症のピークは30〜50歳代とされるが、高齢になってからの発症も増えており、長期的な付き合いが必要な病気だ。早期発見・早期治療で健康寿命を延ばそうと、専門医と認定看護師を中心にチームが連携体制で患者のサポートに当たる西の京病院「リウマチ科」で話を伺った。

●関節リウマチの症状と原因

【関節リウマチ】…関節が炎症を起こし、軟骨や骨が破壊されて関節の機能が悪くなり、放っておくと関節が変形する病気。



【症状】朝の両手のこわばり、手指や足趾など小さな関節の腫れや痛み、ときに膝などの大きな関節にも出現。微熱や倦怠感などを伴うことも。関節破壊が起こると指が曲がったり反ったりと変形し、日常生活に支障が生じる。

【原因】免疫異常により、自分の細胞や組織を攻撃するため。

●診断

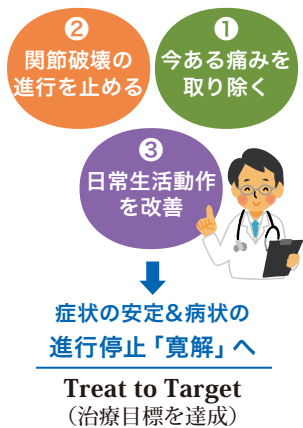
関節とその周辺症状を詳細に触診、レントゲンで骨びらん（骨の病変）や壊れ具合（関節破壊）を診る↓血液検査とエコー（超音波検査）で、炎症の程度や状態

をチェック↓検査の結果と関節の腫れ、炎症が6週間以上持続などで総合判断。

関節の破壊は関節リウマチ発症後、早期（1〜2年）に急速に進む！

早期発見・早期治療が必要！

●治療【関節リウマチ治療の目標】



【基礎療法】健康維持と関節に負担をかける日常生活

【薬物療法】基礎療法+治療薬（症状によって非ステロイド性消炎鎮痛剤・抗リウマチ剤・副腎皮質ホルモン剤・生物学的製剤を使い分ける）

【手術療法】薬物療法でも関節破壊が進み、痛みが続く場合の選択肢では、滑膜切除術や関節形成術、人工関節置換術、関節固定術がある。

【装具療法】身体的機能を補う装具や自助具

2003年の生物学的製剤発売で治療方法が劇的に進歩！関節破壊の進行や変形を止めることも可能に。

●関節リウマチの足の変形

【外反母趾】母趾の付け根の関節に滑膜炎が起き関節を破壊、変形。

【足底のたこ】外反母趾同様の原因で趾先が上に持ち上がることで、中足骨の末端に圧がかかり、たこができる。

【開帳足】軟部組織のゆるみで足底の横アーチが低下し、足底の荷重分布に異常。

【扁平足】足底の縦アーチの崩れで生じる変形。

【扁平三角状変形】外反母趾、内反小趾、第2〜第4趾関節の背側脱臼、扁平足、開帳足が組み合わさって起こる変形。



リウマチ以外の手指の変形

関節リウマチと間違われるものに、第一関節に起こるヘバーテン結節、第二関節に起こるブッシュナー結節、親指の付け根に起こるCM関節症などがある。

治療薬も開発され、早期治療で寛解される方が増えています。進行した方は関節痛の抑制を希望されますので、関節内注入で疼痛軽減を積極的に行っています。



リウマチ科部長  
福居 顕宏 医師  
FUKUI AKIHIRO

リウマチ科

日時：月曜午前、木曜午前、火曜午後

※事前予約制

問 患者支援センター TEL.0742-35-2219  
(月〜金8:30〜17:00、土8:30〜12:30)